

令和5年度 第4回
北広島市保健福祉計画検討委員会障がい福祉部会

日時：令和5年10月31日（火） 18時30分～19時30分

場所：北広島市役所 3階 会議室3C

◇北広島市保健福祉計画検討委員会委員

出席者：若狭委員、鳥居委員、近藤委員、加藤委員、小嶋委員

欠席者：西野委員、綿谷委員

◇事務局

福祉課：鈴木課長、角田主査

こども発達支援センター：高屋センター長、阿部主査

福祉総合相談室：林参事、田淵主査

◇傍聴者0名

〈議事概要〉

1 説明事項

(1) 障害支援計画策定に関わる基本的事項

事務局：資料1、2に基づいて説明。

部会長：事務局の説明に対して質疑・意見等があればご発言願います。

3ページ目、新たに福祉人材の確保定着とある。どの事業所も人手不足が年々深刻で、福祉を維持できるのかと感じるほど。国の指針でも具体的ところが全く見えてこない。北広島市で独自にやっている施策もあるのでもっとアピールしてもいいと思う。市として支給決定をしてくれることは評価しているが、人が確保できないのが課題。人材の確保定着に加え、人材の教育に関する記述もあった方がよい。

事務局：福祉人材確保給付金については記載している。障がい福祉従事者人材バンクというのも入れているが、こちらは周知が不十分な部分もあり、具体的なPRなどについて検討したい。

委員：3ページ目、家族やヤングケアラーへの支援とある。18歳まではヤングケア

ラーとして支援するが、それ以上の年齢となったらそういった支援がなくなる懸念がある。年齢が上がっても継続して支援するような体制が必要。

事務局：保健福祉部に福祉総合相談室が設置されており、幅広く切れ目なく相談が受けられるようになっている。一定の年齢になったときに相談を受けられないということはないように対応している。

部会長：望ましい方が配置できるという前提で考えたときに、ざっくり何人程度の福祉人材が足りていないか規模感をお聞きしたい。

委員：かなりの人数が必要だと思う。ヘルパーも高齢化が進んでいる。障害や高齢でそれぞれ人手が必要だが、障がいでは、より負荷が高いので、高齢になったヘルパーでは対応できないということもある。若い人材の確保などを進めないとなれば3年は非常に厳しい状況になると思う。

委員：やりがいを覚えることなく離職ということもあり、給料だけではなく達成感を得る機会やスキルアップが大事。

委員：先ほどの福祉人材バンクについて、登録のハードルが高いと感じる人も多いと思う。現場に聞くと、隙間時間での作業や清掃の業務など、比較的とつきやすいニーズもあり、学生のアルバイトなどが参入しやすいようにするのもよいと思う。

部会長：方向や方法は間違っていないとのことなので、委員の方を中心に、実際にやるべきときこのようにしたらよいというご意見を言いただければ。

部会長：続いて11ページまでの範囲についてご意見は。

委員：6ページ目の施設入所者数の減少、地域移行について。特にコロナ後、在宅で生活している親御さんも通所が閉鎖されてつらい思いをし、施設に入所させたいという動きがみられ、地域移行は現実には即していない状況となっている。地域の中で受け入れ先があるということが在宅を維持する中でも安心。一時期、国が地域移行をお題目に施設からグループホームに移したことが入所者減につながったのかと思うが、当時から情勢がかわっており、実現できない数を載せることとなりかねない。目標を調整できないか。

事務局：確かに国の指針を受けて設定したものはあるが、市としては必ずしも数字を守るというよりは、地域・家族・当事者の方のニーズあってのものと考えている。地域移行したいという方がいらっしゃれば、そのニーズを満たしていく上での数値となっている。中には地域に移行したいという方もいらっしゃるので、そういった方にご安心いただくということもありこの目標を設定

したい。

委員：そういった方の気持ちを考慮いただくにしても、受け入れ先となるグループホームの数も体験の機会も限られている。地域移行の希望はあるとしても、ともかく受け入れ枠が少なすぎる。施設を作るのは事業者の方となるし、事業者にとっても建設費高騰などますます難しい状況と思う。

委員：入所施設では、土地も物件も高いので確保が難しく、この3年間のコロナで支出が厳しい状況。施設では強度行動障害の方が数多く利用しているが、本人が地域移行を希望したとて受け入れるだけの施設や職員が確保できないし、地域の理解も必要。なかなか数字のようにはいかない。

毎日のように入所の見学が来ており、短期入所もマックスで受け入れているので何をどう解決していくかという状況。

部会長：計画書と現実の状況との対比で課題がどこにあるかはわかっているだろうが、人も含めたリソースという点で市も厳しいとは思ふ。学校もここ10年くらいの間に欠員が埋まらなかったりと状況は同じ。これまではお金がなくてもやりくりする工夫をしてきたが、今は人がいなくてもやりくりする工夫というのが必要な状況。海外の方を雇っているところが多いとは聞くが、教育や継続的な雇用が課題となる。

委員：一度入ってきた人が辞めないようにするため、市としてどのような機会が与えられるかを考えなければならないと思う。農業などでは都会から来た人を支えたりするが。

部会長：計画の策定は進めるが、少しでも新しい考え方が見つかるようにしたい。

委員：一市町村の問題でもないので、国に対して要請するようなことに言及してもいいと思う。

事務局：都道府県との連携や大まかな方針を決めたのちに個別具体の施策を検討していきたい。

2 その他

事務局：当事者団体のみならず、市内の施設・事業所へのアンケート調査を実施しているところ。今回のご意見も踏まえ様々な要素を組み込みながら作成していくので、作成次第ご意見を頂戴したい。

次回は11/27(月)18時に障がい部会を開催、素案の最終調整を行う。

続いて19時に全体会を実施し、障がい・高齢の素案を諮りたい。

